

- ・「持続可能な北勢地域の社会形成と大学の連携」
 - ・国際協力海外研修（タイ研修）を実施 P.1
-
- ・「地域モデル：下野☆キラリ大作戦」
 - ・エコジャパンカップ
 - ・サンタ列車、今年度も快走 P.2

- ・総合政策学部でディベート大会
 - ・「ETVよっかだい」がもっとネット大作戦に参加
 - ・四日市大学生が地域を元気に・・・四日市流域ルネサンス P.3
-
- ・「よっかだいエコ活動」が竹若舎と吉兆窯を見学
 - ・三重団地で地域の方々と交流会 P.4

「持続可能な北勢地域の社会形成と大学の連携」

四日市大学は、平成24年3月24日（土）に四日市文化会館第3ホールでフォーラム「持続可能な北勢地域の社会形成と大学の連携」を開催した。一般市民の方々、地域の市民団体、四日市市の行政部門の方々、四日市大学教職員と学生などが集まり、全体で約120名の参加者となった。

最初に、三重県知事鈴木英敬氏に『幸福実感日本一』の三重をめざして～県民力による『協創』の三重づくり～というテーマで基調講演を行っていただいた。幸福感に関するクイズなど皆で考える話題もあり、知事の元気なご発表で、会場は盛り上がった。続いて、教員と学生による一般講演が4件あり、質疑応答のあとで交流会も開催された。四日市市長田中俊行氏からの応援メッセージも届き、自分たちが地域創りの主人公であるという思いが会場に広がった。アンケートでは、「四日市大学がこのような活動をしているのは知らなかった。地域・人・文化を研究するのは素晴らしいことだ。現場にまで入っているのは驚きだ。」「日頃学内でのようなことを学び、自らの学生生活を充実させるためにどのような活動に参加しているのか初めて知った。学生は緊張しながらも自らの言葉で説明してくれたのが良かった。」「今の学生が地域のためにグループを作って参画していることに感心。留学生の多さと多文化共生について考えていることに感心。」「外国人学生の真面目な姿に感動した。特に隣国との交流は大切なことなので、ますます発展するように願っている。」などのご意見を頂戴した。なお、このフォーラムはCTYとメディアネット四日市の取材を受けた。また、本学がCTYで放映している教養番組「ETVよっかだい」でも、このフォーラムの様子を流すことになっている。

国際協力海外研修（タイ研修）を実施

2月16日（木）から24日（金）までの9日間、「国際協力論」の講義の一環である・タイ研修を実施した。この研修は、青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティアなど、日本が行う発展途上国での国際協力活動を学ぶことを目的とし、全学組織である国際交流委員会が所管して実施している。今回は、総合政策学部の4名が参加した。

研修内容は、タイ北部チェンライで、教育機会に恵まれないタイ山地民の中・高校生を支援する生活寮「暁の家」（代表 中野穂積氏；三重県出身）の活動内容を知る事と共に、山地民の方の家にホームステイをさせていただき、コーヒー畑を見学するなど、村の実際の生活を体験することである。また、昨年、東日本大震災後、ボランティアに参加した山本健太さん（総合政策学部2年）は、ボランティアの体験について発表した。

その他にも学生たちは日本のアニメなども紹介し、「暁の家」の生徒の皆さんと交流できたことは、楽しい思い出となった。研修中には、チェンマイの「アーサー・パッター・デスク財団」の「ドロップインセンター」（ストリートチルドレンを支援する団体）も訪問した。タイの子供たちのために活動をしている団体を訪ね、タイの現状や支援のあり方についてじっくり考えることができたのは、参加学生にとってとても貴重な経験となった。



「地域モデル：下野☆キラリ大作戦」

四日市大学エネルギー環境教育研究会は、循環型の地域社会づくりを目指し、「地域モデル：下野☆キラリ大作戦」の取り組みを開始した。この取り組みは、里山の保全などの目的で間伐された竹を養鶏に利用した「伊勢竹鶏物語」の手法を活用し、山林の保全と地域の活性化を推進することを目的にしている。2012年1月26日(木)に第1回会議を本学で開催し、3月5日(月)には現地見学会を実施。見学会には報道関係者、市民社会研究所と四日市大学エネルギー環境教育研究会のメンバー、四日市大学の教員と「よっかだいエコ活動」の学生などが参加し、2月14日(火)に設立された「NPO法人・下野・生き域ネット」の方々の案内により、下野地区と養鶏場の予定地等を見学した。最初に下野地区センターで概要説明があり、四日市大学エネルギー環境教育研究会の新田義孝会長(環境情報学部教授)から「伊勢竹鶏物語」を下野地区で展開することになった経緯や意義が述べられた。また、竹粉末などを加えた有機物の発酵熱で黒にんにくを作成する実験結果について、住田紗里さん(環境情報学部2年)から説明があり、下野地区の名産品に出来ないかとの提案があった。当日はあいにくの雨模様となったため、見学会では車で現地を巡り、養鶏場予定地、名物の梨園、竹林を間伐した市民ふれあい広場などでは降車して、傘をさしながら説明を受けた。見学会の最後には参加者全員で、「この取り組みを成功させるぞ。エイエイオー！」と掛け声を掛けて締めくくった。

補足説明) 下野地区は四日市大学の近隣にあり、四日市市の最北部に位置する。その面積は山林、農地、住宅地などを含み約8km²、人口は約8,400人、高齢化率は約25%の地域である。

エコジャパンカップ

1月21日(土)、環境情報学部3年生の田中勝利さんと近藤光太郎さんが熊本県水俣市のエコジャパンカップ第二次選考会にて、プレゼンテーションを行った。水俣市および実行委員会で実施している「みなまた環境大学」の内容充実と学生等の参加支援を図るため、エコジャパンカップのパートナー・コンテストという制度を活用して、学生等の団体からカリキュラムを募集。優れた提案に対して賞金を授与し、そのカリキュラムを基に翌年度の「みなまた環境大学」を実施するもの。田中さんと近藤さんは、「四日市大学エネルギー環境教育研究会の協力を得て、伊勢竹鶏物語プロジェクトを水俣で応用することにより地域の活性化を行ってはどうか」との提案を発表した。全国から第一次審査を突破した5大学の学生たちが7名の審査委員を前にして、それぞれ20分間のプレゼンテーションを行った。その結果、昨年の震災被害に会った東北大学がトップ当選、水俣に数回通って現地調査を重ねてきた明治大学が2位、残念ながら本大学は受賞を逃した。しかし、立派なプレゼンテーションに会場から大きな拍手を戴いた。田中さん・近藤さんのプレゼンテーションの様子はビデオに収録され、近くCTYの教育番組「ETVよっかだい」にて紹介される予定。四日市と同じく四大公害を経験した水俣の歴史を学び、共通するところに深く共感する機会となった。

サンタ電車、今年度も快走

12月23日(祝)、今年度の三岐鉄道・北勢線の「サンタ電車」は、東員駅発10時20分から出発した。西桑名と阿下喜を2往復した車中では、500名以上の子どもたちとその保護者で大賑わいだった。飾り付けを今回は3両に増やしたので、昨年ほどの混雑はなかったが、ピーク時にはやはり、身動きが取れない状況にもなった。今回の目玉は、地元キャラクターの勢揃い。(四日市市の「こにゅうどうくん」、桑名市の「ゆめはまちゃん」、東員町の「とー馬くん」、いなべ市「うめぼ〜や」)西桑名駅で11時と午後1時半に行った出発式は、ホームから溢れんばかりの人で盛り上がった。幸い、混乱もなく、無事終了。サンタやキャラクターに扮して、また、その補助として参加してくれた学生たちも満足気だった。お孫さんを連れてきたおじいさんは「こんなにお客が乗っている北勢線は自分の若いころ以来だ」とおっしゃり、子連れの妊婦の方からは、「お腹の中の子どものもサンタ電車に乗せてあげたいから続けてね」と毎年、期待が高まっている。北勢線の存続のために、来年も新たな企画とともに、サンタ電車は走り続ける。

総合政策学部でディベート大会

総合政策学部では、1年生後期の演習（ゼミ）として、毎年ゼミ対抗のディベートに取り組んでいる。ディベートは一定のテーマに対し、「賛成」・「反対」の2つの立場から議論をし合うもので、テーマについての調査や資料作成を通じた学習、口頭による発表や討論によるコミュニケーション力や論理的な思考力の養成など、総合的な教育として大変有益だと考え、実施している。今年度のテーマは、3月の東日本大震災と福島原発事故を受けて、「日本は2022年までに原子力発電所を全廃すべきである。是か非か?」。8名の教員が指導する8つのゼミ対抗で練習を積み、1度予選をした上で、12月21日（水）にトーナメント方式で決勝大会を行った。テーマが少し難しかったものの、「命より大切なものがあるのか」「原子力に替わるエネルギーを2022年までに用意できるのか」「原子力発電を廃止した時の生活や経済への影響は」など、さまざまな観点から議論が行われました。2つの教室で7回の対戦を行い、最終的に勝ち抜いてきたチーム同士が戦う決勝戦では、最後まで白熱した討論が行われた。終了時にはジャッジに回った敗戦チームの学生たちから大きな拍手が沸き起こり、お互いの健闘をたたえ合った。優勝した岩崎恭典ゼミには、伝統の優勝盾が授与された。来年の大会まで保管され、来年度の新生がこれを受け継ぐことになる。



「ETV よっかだい」がもっとネット大作戦に参加

3月24日（土）近鉄四日市駅近くのグリーンモール商店街で「第1回四日市発もっとネット大作戦」が開催され、「ETV よっかだい」の学生メンバーである近藤勇人さん、辻浩明さん、藤代康太さん（環境情報学部1年生）が参加してブースを展示した。彼らは四日市商店連合会による商店街の活性化活動に最近参加し、Ustream 放送などにも出演してきた。「もっとネット大作戦」は商店街の方々やお客さんにインターネットやソーシャルメディアを紹介する企画で、Facebook 講座、スマートフォン体験コーナー、Ustream 公開生放送などを行った。学生たちは街角の一角にブースを構え、「ETV よっかだい」（四日市大学がCTVで放映している教養番組）を紹介するパネルを展示し、また番組の動画を流した。イベントを盛り上げるのに一役買ったようだ。



四日市大学生が地域を元気に・・・四日市流域ルネサンス

2月25日（土）四日市総合会館にて四日市大学研究機構の「流域ルネサンスプロジェクト」の報告会が開催された。1部では、Movie Zoo（学生の映像制作団体）とAプロ（阿下喜プロジェクト）が、それぞれ次の内容の報告を行った。Movie Zooはこれまでに地元中小企業や四日市のまちかど博物館取材し、映像作品を制作している。伊藤康佑さん（経済学部1年）は、「自分たちが感じたものを少しでも多く表現したいと思う。これからも地域で様々な交流をし、積極的に魅力ある話題を発信していきたい。」と話した。また、Aプロで活動している学生たちは、北勢線終着駅の阿下喜地域の魅力を発見し、昨年10月の大学祭に展示。昨年秋からは西桑名地域の調査を始め、その魅力を「いろはカルタ」にまとめた。このカルタは会場で拍手喝采を浴びた。このカルタについては、地域教育の教材にするためのスポンサーを募集している。また、3月には「あげきのおひな様祭り」にも参加して展示を行い好評であった。第2部では、2つのプロジェクトに参加している学生と、一般参加者の方々が7つのテーブルに分かれて討論し、今後の活動へのアイデアなどについて意見交換を行った。



「よっかだいエコ活動」が竹茗舎と吉兆窯を見学

「よっかだいエコ活動（正式名称は四日市大学環境協働活動会議）」（以降、エコ活）は、2月20日（月）に三重県多気郡明和町にある竹茗舎と度会郡玉城町にある吉兆窯を訪問した。エコ活は学生と有志教員からなるグループで、3年前に結成され、これまでに学内の自然環境管理や学外での環境活動などを行ってきた。その中で問題になっていたのが、竹林の間伐に伴い排出される竹材の有効利用。エコ活では、これまでに水鉄砲や竹とんぼなど玩具の制作、スタードームや竹灯籠など調度品の制作、竹炭化や、粉碎・微粉化などを行ってきたが、さらなる利用方法がないかと考えてきた。

今回、その情報を得る目的で、竹茗舎と吉兆窯を訪ねた。両施設では、代表を務める渡邊幸宏様から、明和町斎宮周辺の古代からの竹との深い係りや竹文化について話を伺い、また竹の根を用いた彫刻や、各種の竹細工の展示品の数々を紹介していただいた。また、吉兆窯では竹炭窯の説明、竹炭をつくるための竹の加工方法、里山の管理に係る竹の利用方法などを教えていただいた。エコ活では、教えていただいた情報を参考に、これからも環境保全活動を進めていく。

また、竹茗舎では、本学卒業生の田代さんが伊勢竹鶏物語（本学の関わった研究開発・地域貢献活動）で開発した竹鶏卵をビジネスとして継続・製造しており、その卵が販売されていた。先輩の頑張っている様子を思わぬところで見ることができ、学生達も喜んでいて。今回の活動に参加したのは、エコ活メンバーの学生7名と環境情報学部の高橋教授、千葉教授。四日大エコ活動の学生たちは活発な活動を続けている。



三重団地で地域の方々と交流会

総合政策学部では昨年「学生による大学活性化企画事業」を行っている。今年度選定された企画の一つとして、学生と地域の高齢者との交流会を12月20日（火）、三重団地の皆さんと行った。この企画は、今年前期の総合政策学部のゼミで、一人暮らし高齢者の孤独死の問題に取り組んだことがきっかけになっている。

真弓秀子さん（総合政策学部1年）が、四日市市内でも一人暮らし高齢者のために地域で交流会が行われていることを新聞で読み、学生としてできることをやりたいと考えた。真弓さんの思いを聞いた留学生やボランティア部の皆さんが賛同し、一緒に取り組むことになった。学生が地域に入っていくには、自治会等の役員の皆さんと事前の打ち合わせを何度もするなど、時間をかけた準備が必要だった。突然学生から申し出を受けて最初は戸惑っていた地域の皆さんも、何度も足を運ぶ学生たちに次第に打ち解けていき、今回の合同イベントに至った。学生たちがサンタクロースに扮してのゲームなど、10名の学生の奮闘に、子どもにかえったような高齢者の皆さんの笑い声が集会所にあふれた。学生たちも「やってあげている」のではなく、自分たち自身が心から楽しむことができた。やって良かったという思いを胸いっぱいにして帰ってきたが、一過性のものにしてはならないと、来年も訪問することや、今度は地域の方々を大学にお招きすることなど、次への取り組みに向けた検討が早速始まっている。

これまでのPick Up Topicsはホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

または、四日市大学トップ→大学案内→
ピックアップ・トピックスをご覧ください。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町 1200

TEL059-365-6711 FAX059-365-6630